

東日本大震災における女性の視点・ニーズを反映した 避難所での好事例

内閣府男女共同参画局

(平成23年5月23日時点)

女性や子育て家庭にとって、被災地での避難生活を少しでも安全・安心なものとし、負担をやわらげるためにも、避難所の設計や運営に配慮することが重要です。

また、女性の視点・ニーズを反映させるためには、避難所運営に女性が参画していること、あるいは女性が意見を伝えやすい仕組みを設けることが重要です。

今後の復興に向けては、女性の新たな就業ニーズが高まることが予想され、女性の就労機会の確保が重要な課題となっています。

以下の事例については、内閣府男女共同参画局が、現地調査等で聞き取った好事例ですので、参考にしてください。

1. 「女性専用スペース」の設置

女性専用スペースを設置し、情報の提供や交換の場、心境・不安を語り、相談等が肩肘張らずできる場となっている。

女性専用スペースには、給湯設備、打ち合わせテーブル、ソファ等を備えており、湯沸かし、着替え、授乳、お化粧、ドライヤーの使用など、様々な目的で人が常集まり、和やかで、笑いの聞こえるスペースとなっている。

この女性専用スペースの運営を県の男女センターの職員がコーディネーターとなり、地元の女性団体のグループがボランティアで運営している。



2. 被災者支援のための雇用の創出

被災者の雇用を新たに創出するため、避難所での炊き出し、遺品や写真の洗浄をする人を役場で募集し、雇用している。